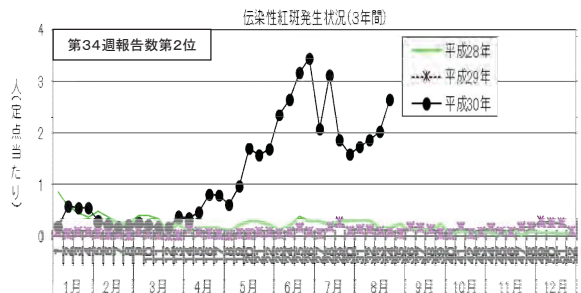
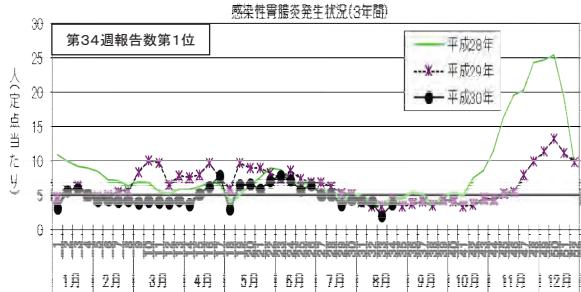


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年8月20日(月)～平成30年8月26日(日)〔平成30年第34週〕の感染症発生状況

第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)伝染性紅斑 3)ヘルパンギーナでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.76人と前週(2.07人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は2.64人と前週(2.03人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は2.39人と前週(2.77人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



こんな症状に注意！！～海外旅行後の健康チェック～

海外旅行者の数十パーセントが、帰国後何らかの体調不良を訴えるといわれています。感染症には、潜伏期間が数日から1週間以上と長いものもあり、渡航中あるいは帰国直後に症状がなくても、しばらくしてから具合が悪くなることもあります。

体調不良がみられた時は早めに医療機関を受診し、症状だけでなく旅行先や旅行期間も必ず医師に伝えてください。

受診前のチェックリスト

- 氷入りの飲み物を飲んだ
- 蚊に刺された
- 動物に触った
- 湖や川の中に入った
- 周囲に体調が悪い人がいた
- 現地地で治療を受けた

厚生労働省検疫所(FORTH)「病院にかかる前のチェックシート」から抜粋

発熱

海外から帰国後、発熱することは多く、特に発展途上国から帰国した人の2～3%に発熱がみられるといわれています。

【発熱をきたす感染症】
 デング熱、マラリア、麻疹、風しん、ジカウイルス感染症等

発疹

発疹は、ウイルス、細菌、寄生虫等、様々な感染が考えられます。疾患によって発熱に伴うもの、かゆみが強いもの等があります。

【発疹をきたす感染症】
 麻疹、風しん、デング熱、ジカウイルス感染症等

止まらない下痢

海外旅行に行った人の半数以上が旅行先で下痢を起こします。通常は数日でおさまりますが、帰国後も症状が続く場合もあります。

【下痢をきたす感染症】
 細菌性赤痢、腸チフス、コレラ等



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

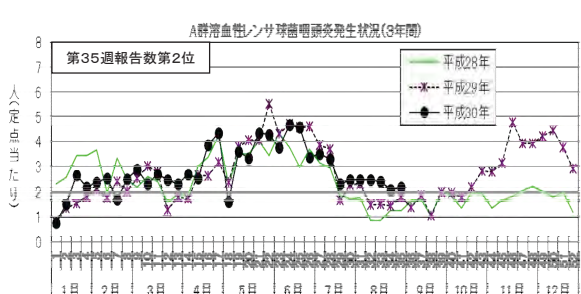
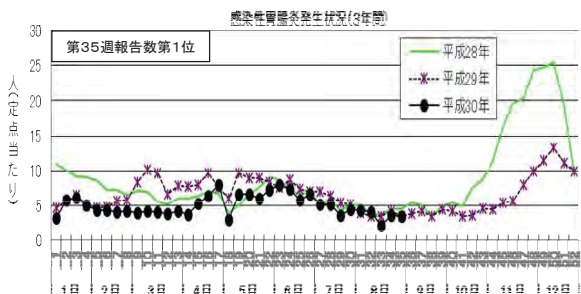
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年8月27日(月)～平成30年9月2日(日)〔平成30年第35週〕の感染症発生状況

第35週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)ヘルパンギーナでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.46人と前週(3.57人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.19人と前週(2.09人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は2.03人と前週(2.37人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

★風しんウイルス★
ルペラくん



風しんが流行しています！～特に成人男性は要注意～

7月下旬以降、千葉県、東京都、神奈川県などの首都圏を中心に風しんの患者報告数が急増しています。年齢階級別では、男性は30歳代～40歳代、女性は20歳代での報告が特に多くなっています。

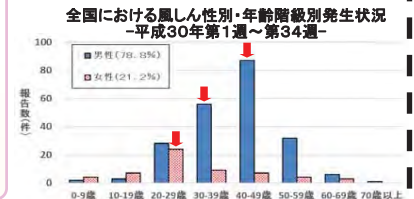
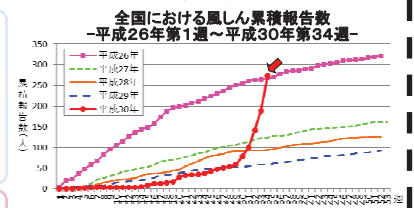
川崎市においても、平成30年第1週～第35週(1月1日～9月2日)までに計13件の患者が報告されており、30歳代～40歳代の男性が約7割を占めていました。風しんに関する正しい知識を持ち、予防対策等を徹底しましょう。

風しんとは？

- 感染経路:主に飛沫感染
- 潜伏期間:2～3週間(平均16～18日)
- 感染可能期間:発疹出現の1週間前～1週間後
- 主な症状:発熱、発疹、リンパ節の腫れ
- 予防方法:風しん含有ワクチンの接種

先天性風しん症候群(CRS)とは？

妊娠20週頃まで(特に妊娠初期)の妊婦が風しんに感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴などの症状を呈する先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。
 妊娠前に2回(幼少期を含む)風しん含有ワクチンを接種することによって、妊娠中に風しんにかかることを予防できます。
 ※ただし、妊娠中は風しんの予防接種を受けることはできません。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年9月3日(月)～平成30年9月9日(日)〔平成30年第36週〕の感染症発生状況

第36週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.24人と前週(3.46人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.27人と前週(1.84人)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.19人と前週(2.19人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

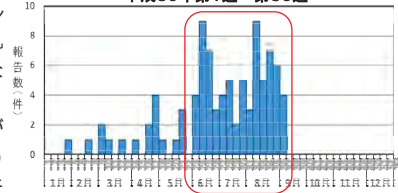


ワクチン未接種の乳幼児は要注意！～百日咳～

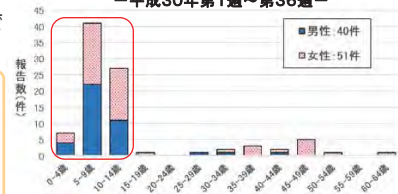
百日咳は、百日咳菌を原因とする急性の細菌感染症です。特に乳幼児が罹患すると重症化しやすく、罹患した新生児やワクチン未接種の乳児の半数以上が呼吸管理のため入院加療となったとの報告や死亡例の報告もあります。

市内では6月以降、毎週2件～9件の届出があり、第23週～第36週(6月4日～9月9日)は累計で73件にのぼりました。約9割を占めていたのが15歳未満の小児でしたが、ほとんどの事例でワクチン接種歴があり軽症でした。

川崎市における百日咳発生状況 ～平成30年第1週～第36週～



川崎市における百日咳性別・年齢階級別発生状況 ～平成30年第1週～第36週～



百日咳とは？

感染経路: 咳やくしゃみ等による飛沫・接触感染

潜伏期間: おおむね7～10日

症状: かげ症状で始まり、長く続く咳に加え、短く激しい咳が連続して起こり、笛の音のような音が出る咳発作といった特徴的な症状を示す。

治療方法: 適切な抗菌薬での治療

予防方法: ワクチン接種



百日咳菌は、抗菌薬による適切な治療により、通常は服用開始から5日後にはほぼ陰性となります。特に、発症から約2週間の間に服用すると有効であるといわれています。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年9月10日(月)～平成30年9月16日(日)〔平成30年第37週〕の感染症発生状況

第37週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 伝染性紅斑でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.65人と前週(3.24人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.22人と前週(2.19人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は1.73人と前週(1.92人)から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



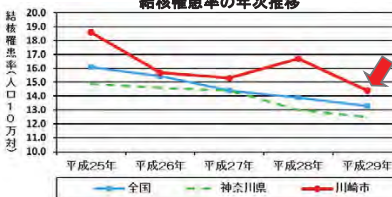
結核の早期発見のため、定期的に健康診断を受けましょう！

平成30年9月24日から9月30日までは結核予防週間です。

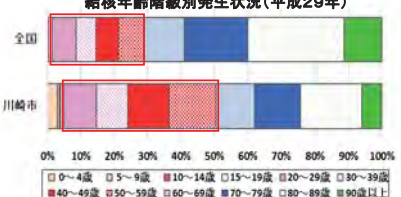
結核は罹患率が年々減少しているものの、今でも我が国では年間約17,000人の新しい患者が発生し、約2,000人が命を落としている主要な感染症です。川崎市では、平成29年の罹患率が人口10万人当たり14.4人と減少はみられるものの、全国(13.3人)よりもやや高く、特に20歳代～50歳代の割合は全国に比べて高い状況です。

もし結核だったとしても、早期に発見できれば本人の重症化が防げるだけでなく、大切な家族や友人等への感染の拡大を防ぐことができます。2週間以上続く咳やたん、微熱、倦怠感などがみられる場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

全国、神奈川県、川崎市における 結核罹患率の年次推移



全国、川崎市における 結核年齢階級別発生状況(平成29年)



結核を発症しても初期段階ではほとんど症状(微熱、倦怠感、長引く咳やたん等)が表れず、特に高齢者では気づかないうちに進行してしまうことがあります。結核が進行すると、咳やくしゃみ等によって空気中に結核菌が飛び散り、その結核菌を吸い込むことにより周りの人に感染が広がります(空気感染)。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

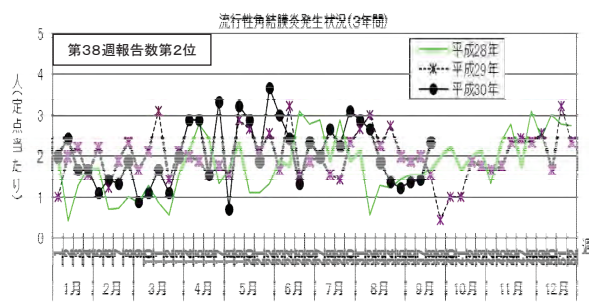
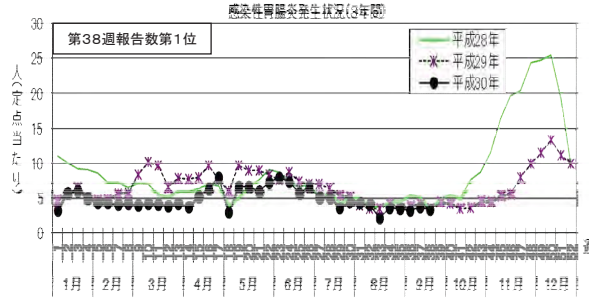
平成30年9月17日(月)～平成30年9月23日(日)〔平成30年第38週〕の感染症発生状況

第38週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.33人と前週(3.65人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.33人と前週(1.44人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.00人と前週(2.22人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



地域的な流行がみられています！～インフルエンザ～

現在はインフルエンザの流行シーズンではありませんが、9月上旬に東京都内の小学校で今季初となるインフルエンザによる学級閉鎖がみられました。川崎市内においても、平成30年第37週(9月10日～9月16日)以降、川崎区からの報告が増加しており、保育園等の施設でインフルエンザの集団感染事例が発生しています。流行シーズン前ではありますが、周辺での流行状況に御注意ください。

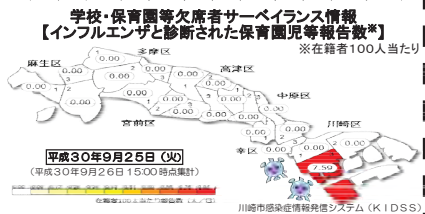
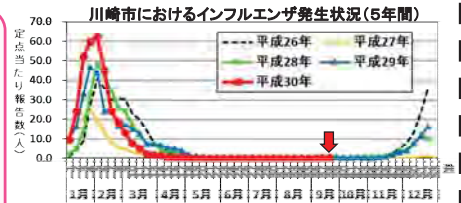


インフルエンザの予防対策！

- 流行前に
 - ✓ワクチン接種
- インフルエンザが流行したら
 - ✓咳エチケット
 - ✓外出後の手洗い等
 - ✓適度な湿度の保持
 - ✓十分な休養とバランスのとれた食事
 - ✓人混みや繁華街への外出を控える

～3つの咳エチケット～

- ・マスクを着用する(口・鼻を覆う)
- ・ティッシュやハンカチで口・鼻を覆う
- ・上着の内側や袖で覆う



川崎市 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

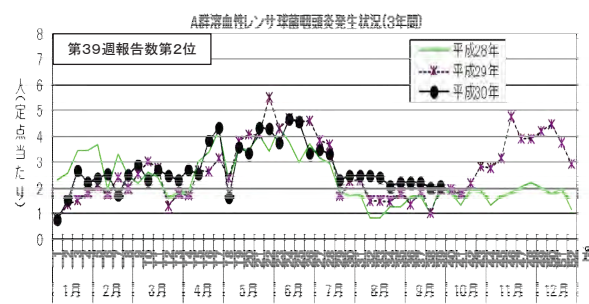
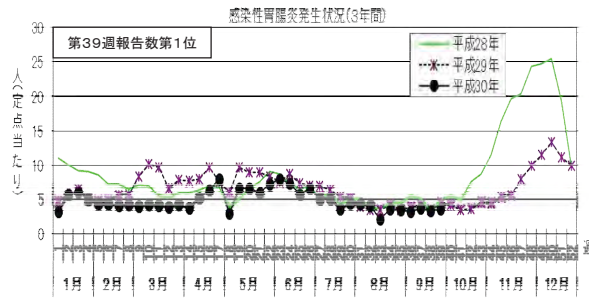
平成30年9月24日(月)～平成30年9月30日(日)〔平成30年第39週〕の感染症発生状況

第39週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.59人と前週(3.33人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.08人と前週(2.00人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.56人と前週(2.33人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



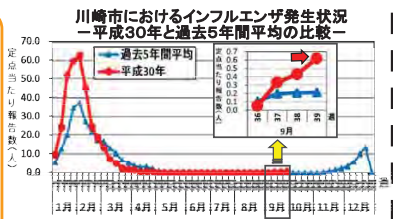
高齢者の方を対象としたインフルエンザの定期接種が始まります

川崎市在住の高齢者の方は、平成30年10月1日からインフルエンザの予防接種を一部公費負担で受けることができます。インフルエンザの予防接種は、感染自体や発症を完全に防ぐことはできませんが、重症化や合併症の発生を予防する効果があります。川崎市においては、平成30年第39週(9月24日～9月30日)の定点当たり報告数は0.62人とまだ流行期ではありませんが、接種後抵抗力がつくまでに2週間程度かかるため、流行前に接種を受けておくことが重要です。



高齢者を対象とした定期のインフルエンザ予防接種

- ◆対象となる方(次の3つの条件を満たしていること)
 - ①住所 川崎市内にお住まいの方
 - ②年齢 I 接種日に65歳以上の方
II 接種日に60歳～65歳未満の方
 - ・心臓病、腎臓病、呼吸器の機能障害(障害1級程度)のある方
 - ・HIVによる免疫機能障害(障害1級程度)のある方
 - ③その他 接種を受けようとするご本人が接種を希望していること
- 接種の際は、住所及び年齢を確認できるもの(健康保険証等)をお持ちください。
- ◆実施期間と回数
平成30年10月1日～12月31日の間に1回
- ◆接種を受けられる場所
川崎市予防接種個別協力医療機関
市が指定した市内約600か所の医療機関です。
- ◆自己負担金(接種を受けた医療機関にお支払いください)
2,300円



今シーズンのワクチンについて

- 今シーズンのワクチンは、A型2種類、B型2種類の計4種類が含まれています。
- A/H1N1亜型(2009年以降の流行株)
 - A/H3N2亜型(いわゆるA香港型)
 - B型(山形系統)
 - B型(ビクトリア系統)
- ※A/H3N2亜型及びB型(ビクトリア系統)のワクチン株は昨年と異なります。

川崎市 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年10月1日(月)～平成30年10月7日(日)〔平成30年第40週〕の感染症発生状況

第40週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.08人と前週(3.59人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は3.67人と前週(1.56人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.38人と前週(2.08人)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。



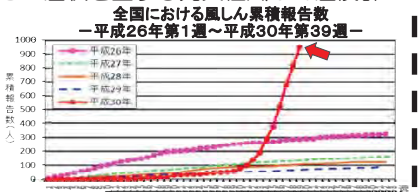
風しんの患者報告数が急増しています！！

現在、特に5都県(東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県及び愛知県)を中心に風しんの患者報告数が急増しています。風しんは妊娠20週頃までの妊婦が感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴などの症状を呈する先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。

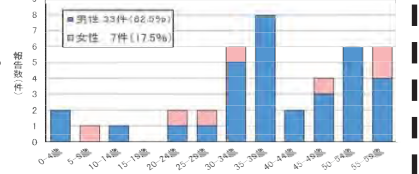
川崎市においては、平成30年第1週～第40週(1月1日～10月7日)に計40件の報告があり、性別では男性が82.5%を占め、年齢階級別では30歳代及び50歳代からの報告が多くなっています。
 妊婦への感染を防ぐため、接種歴や罹患歴がない又は不明の方は、抗体検査や予防接種を御検討ください。本市では風しん対策事業として、対象者に抗体検査の無料実施と抗体価の低い方へのワクチン接種費用の一部助成を実施しています。

川崎市風しん対策事業について

- 1) 風しん抗体検査(無料)
 【対象者】・妊娠を希望する女性
 ・妊娠を希望する女性のパートナー
 ・妊婦のパートナー
- 2) 予防接種(自己負担額3,200円)
 【対象者】風しん抗体検査の結果、抗体価が十分でなかった方
 詳しくは川崎市ホームページで「風しん」と検索してください。



川崎市における風しん性別・年齢階級別発生状況
 平成30年第1週～平成30年第40週

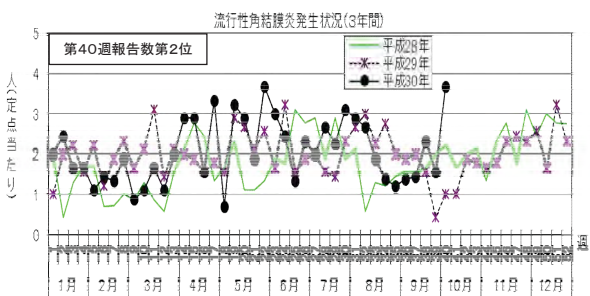
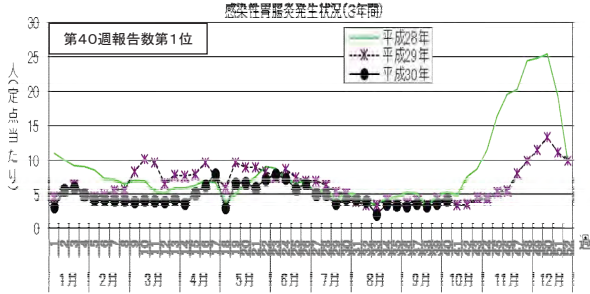


川崎市も風しんの予防接種を受けました

市長は「大切な人を守る意味でもワクチン接種してほしい」と呼び掛けました。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年10月8日(月)～平成30年10月14日(日)〔平成30年第41週〕の感染症発生状況

第41週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.38人と前週(4.08人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.89人と前週(3.67人)から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.86人と前週(2.38人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



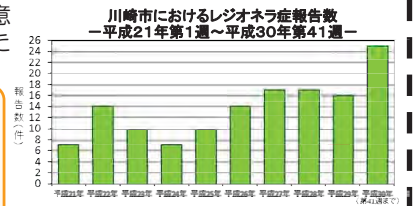
こんな病気に注意しましょう！～レジオネラ症～

レジオネラ属菌は、水中や土壌中など自然界に広く生息しており、レジオネラ症の原因となります。

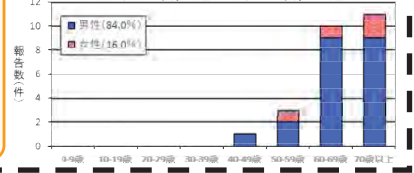
川崎市におけるレジオネラ症の報告数は、全国と同様に毎年徐々に増加しており、特に平成30年は第41週(10月8日～10月14日)までに計25件の報告があり、過去10年間で最多となりました。男性が全体の84.0%を占め、年齢階級別では特に60歳代以上が多くなっています。レジオネラ症は肺炎を発症すると急激に重症化することもあり、意識障害や呼吸困難などの症状もみられるため、注意が必要です。

レジオネラ症とは？

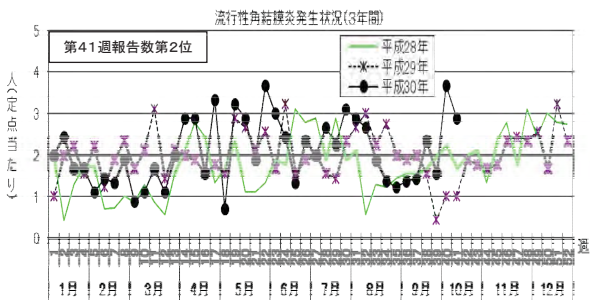
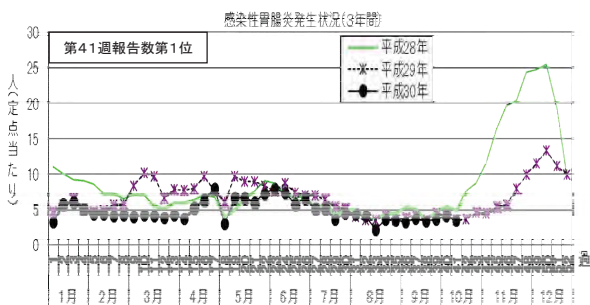
- 【主な症状】
 レジオネラ肺炎
 発熱、咳、呼吸困難、下痢、意識障害など
 ポンティアック熱(肺炎にならない自然治癒型)
 突然の発熱、インフルエンザ様症状など
- 【感染経路】
 レジオネラ属菌に汚染されたエアロソル(空气中に浮遊している粒子)を吸引することにより感染※人から人に感染することはありません。
 ※浴槽のお湯や加温器の水などは新しいものを使用し、清潔を保ちましょう。また、高圧洗浄など、エアロソルが発生する作業ではマスクを着用しましょう。



川崎市におけるレジオネラ症性別・年齢階級別発生状況
 平成30年第1週～平成30年第41週



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年10月15日(月)～平成30年10月21日(日)〔平成30年第42週〕の感染症発生状況

第42週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)流行性角結膜炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.76人と前週(3.38人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は3.11人と前週(2.89人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.65人と前週(1.86人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



家族内での感染に注意しましょう！！～百日咳～

百日咳は、百日咳菌を主な原因菌とする急性の気道感染症で、特有の発作性の咳を引き起こします。
 現在、百日咳の報告数が全国的に増加しており、川崎市においても第42週(平成30年10月15日～10月21日)までに118件の報告がありました。特に15歳未満の小児の報告が多く、推定感染経路は不明であることが多いものの、家族内感染が全体の21.2%を占めていました。百日咳含有ワクチンは生後3か月から接種可能ですが、接種前の乳児が感染すると重症化し、死亡することもあります。小さなお子さんがいる家庭では大人も含めて咳等の症状には注意が必要です。

百日咳とは？

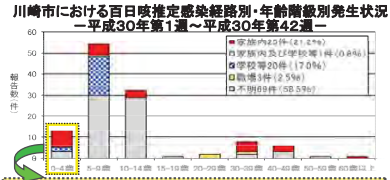
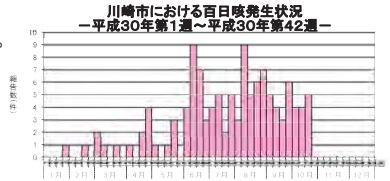
【潜伏期間】 おおむね7～10日間

【症状】 臨床経過により3期に分けられます。

- 潜伏期間(7～10日): 潜伏期間(7～10日)
- カタル期(約2週間持続): カタル期(約2週間持続)
 - ・かぜ症状が始まる。
 - ・次第に咳の回数が増え、夜間も激しくなる傾向も強くなる。
- 痙攣期(2～3週間持続): 痙攣期(2～3週間持続)
 - ・短い咳が連続的に起こる(スタッカート)。
 - ・息を吸う時に鼻の音のような音がする(母音)。
 - ・咳発作がみられる。
- 回復期(2、3週間～): 回復期(2、3週間～)
 - ・激しい発作は次第に減衰し、2～3週間で認められなくなる。

【予防方法】 百日咳含有ワクチンの接種(DPT-IPV等)

※適切な抗生薬の治療により、周囲への感染を防ぐことが可能です。



0～4歳のうち、6か月未満児の報告が5件ありました。
 5件中3件は入院加療となり、そのうち1件は肺炎の報告がありました。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

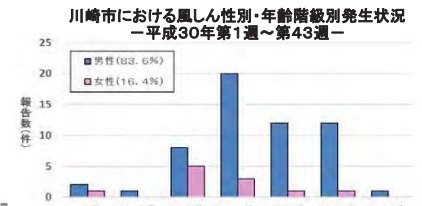
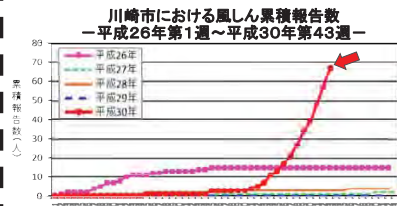
平成30年10月22日(月)～平成30年10月28日(日)〔平成30年第43週〕の感染症発生状況

第43週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)伝染性紅斑でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.30人と前週(3.76人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.89人と前週(2.65人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は1.62人と前週(1.35人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



先天性風しん症候群(CRS)の発生を防ぎましょう！

今年、川崎市においても風しんの患者報告数が著明に増加しており、平成30年10月28日までの報告数は計67件で、特に20歳代～50歳代の男性及び20歳代の女性の報告が多くなっています。
 妊娠20週頃までの妊婦が風しんに感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴などの症状を呈する先天性風しん症候群(CRS)の児が生まれる可能性があります。
 CRSの発生を防ぐためには、妊婦への感染を防ぐことが重要です。生まれてくる子ども達をCRSから守るために、特に妊娠を希望する女性やそのパートナーなどで接種歴や罹患歴がない又は不明の方は、抗体検査や予防接種を御検討ください。



川崎市風しん対策事業について

本市では、無料の抗体検査と抗体価の低い方へのワクチン接種費用の一部助成を実施しています。

- 1) 風しん抗体検査(無料)
 - 【対象者】・妊娠を希望する女性
 - ・妊娠を希望する女性のパートナー
 - ・妊婦のパートナー
- 2) 予防接種(自己負担額3,200円)
 - 【対象者】風しん抗体検査の結果、抗体価が十分でなかった方

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250